

# 多自然川づくりの設計及び工法について

【中学校横 河床低下対策】

【主な内容】

①現状の分析

②設計のポイント

③工法について



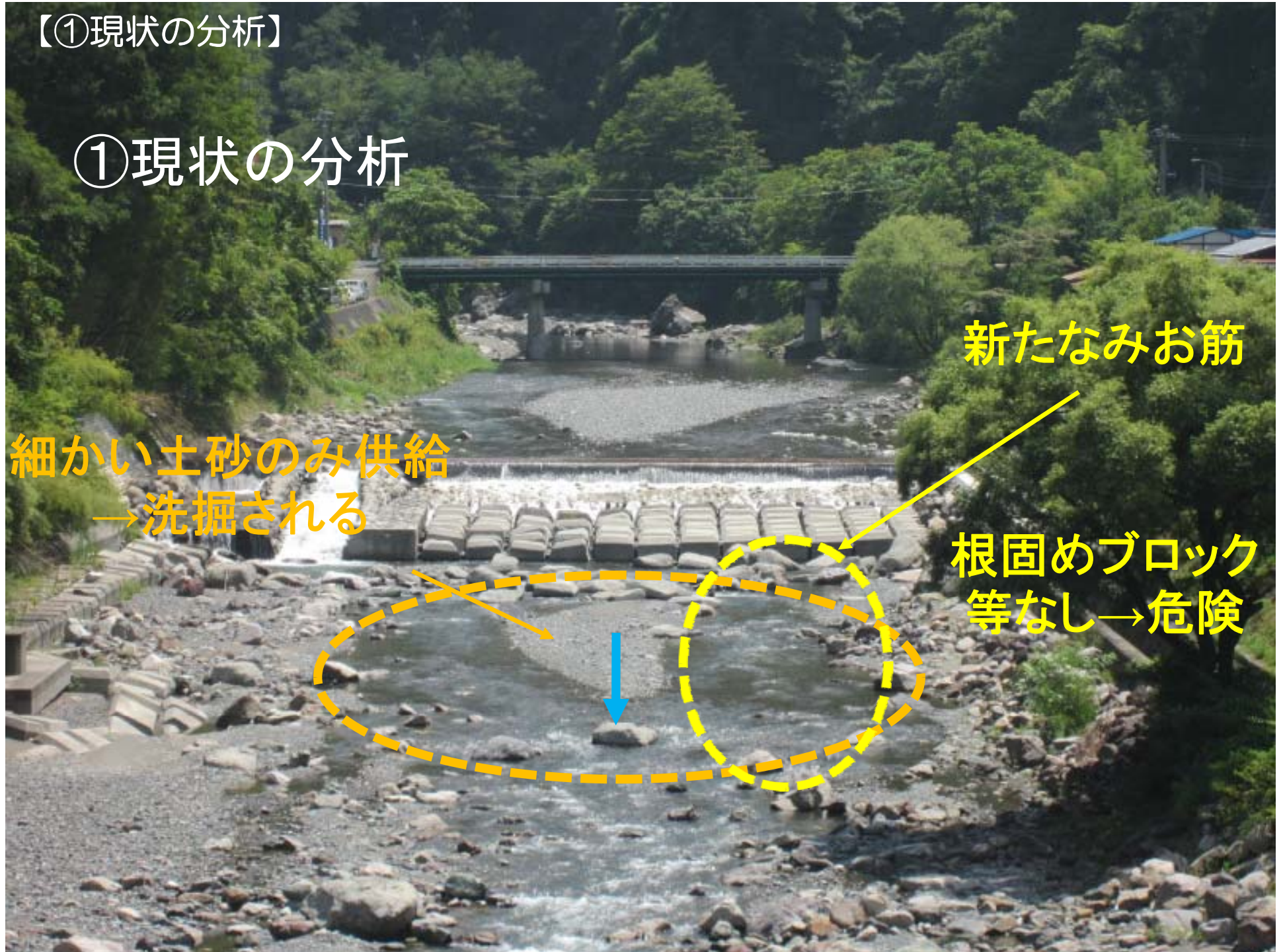
【①現状の分析】

# ①現状の分析

細かい土砂のみ供給  
→洗掘される

新たなみお筋

根固めブロック  
等なし→危険



## 【②設計のポイント】

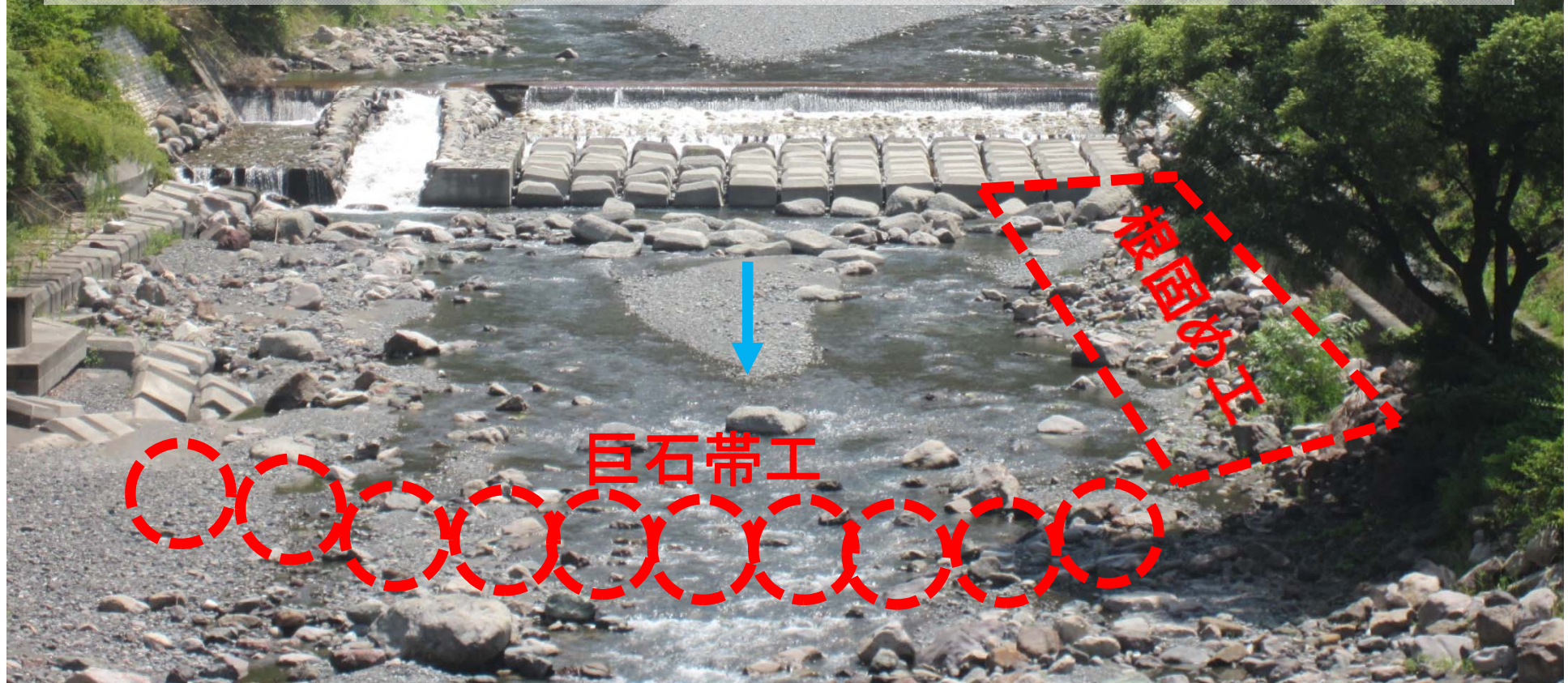
### ②設計のポイント

- ・緊急度の高い左岸に護岸を守るための根固め工を設置し、州の回復を図る
- ・設置範囲は現地状況を観察し、頭首工直下から巨石を含む州が確認できる場所までとする
- ・現状以上に河床低下しない対策

## 【②設計のポイント】

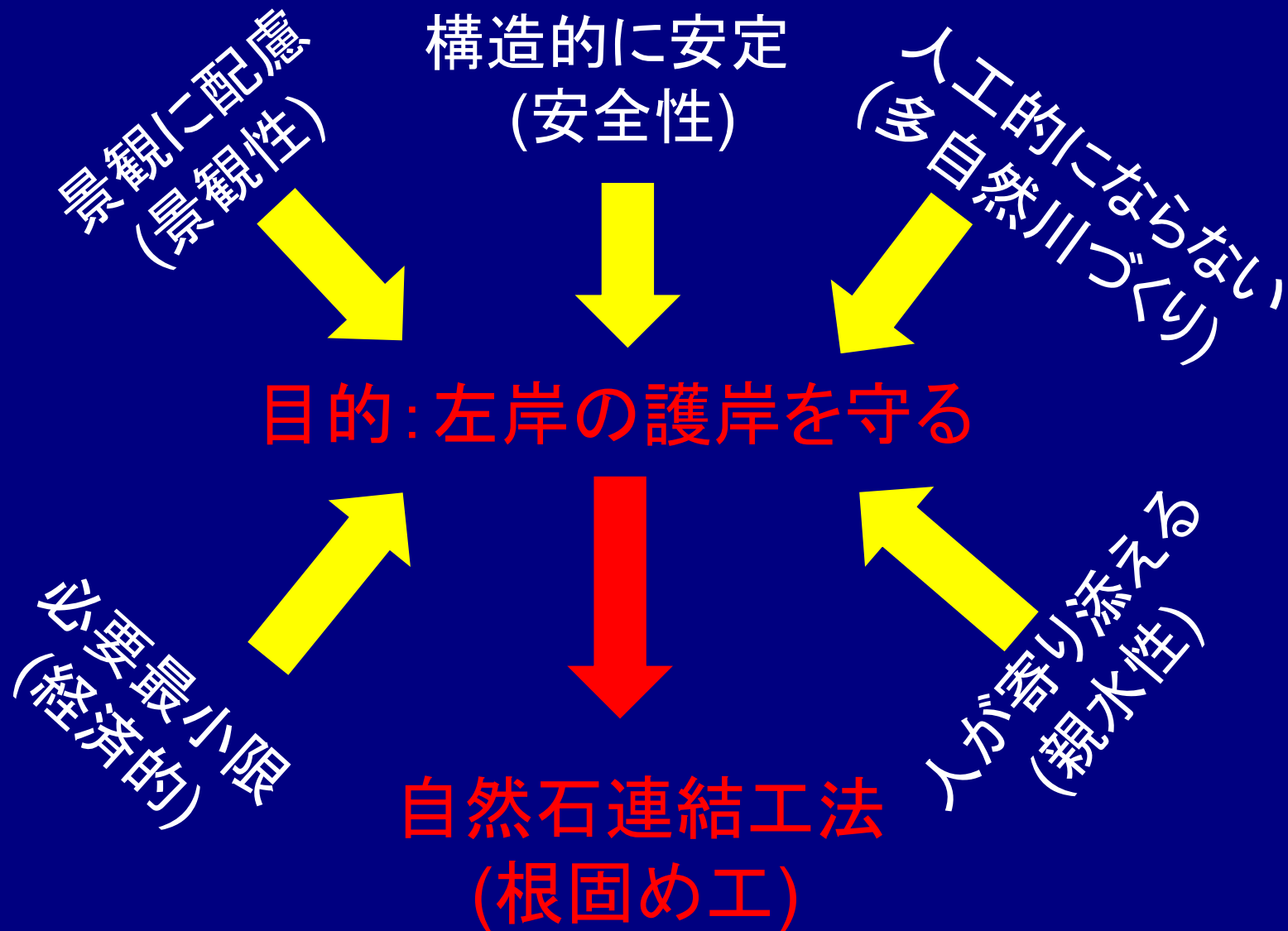
### 設計のポイント

- ・護岸の洗掘防止のための根固め工を護岸の前面に設置する。
- ・現況の河床低下を押さえるための巨石帯工を設置



【③工法について】

## ③工法について(根固め工)



【③工法について】

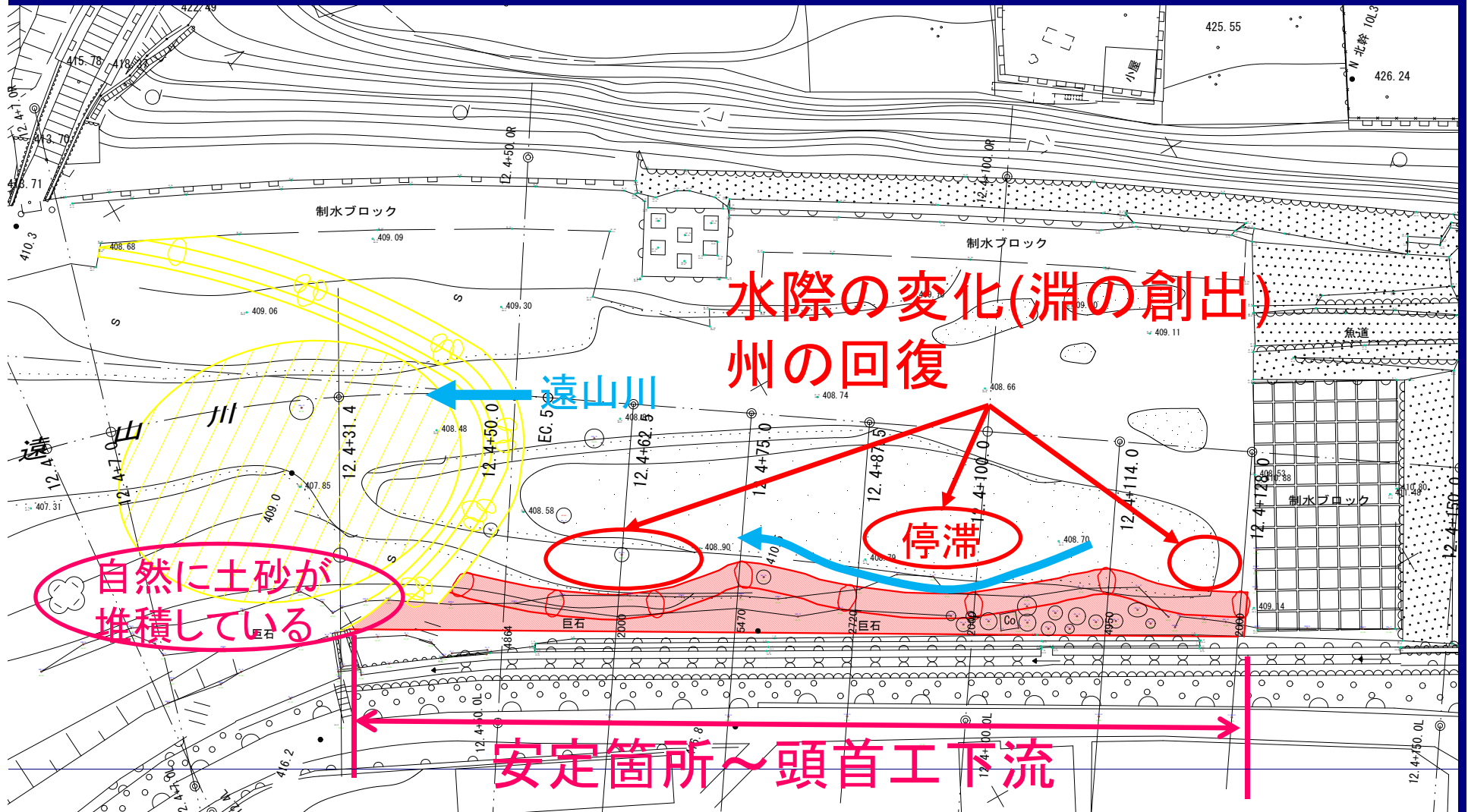
自然石連結工法(根固め工)  
施工例(愛知県 阿妻川)



護岸の基礎部浸食(河床洗掘)  
を防ぐために設置

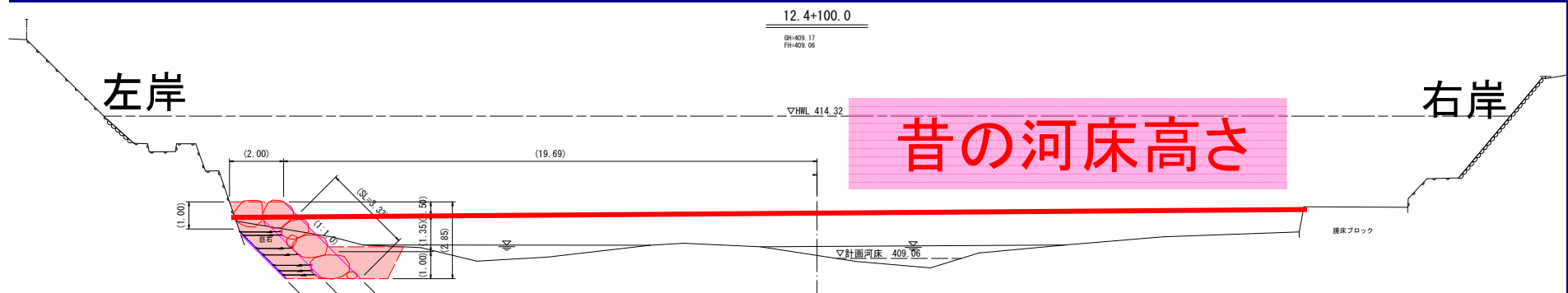
# 【③工法について】

## 平面図



【③工法について】

横断面図

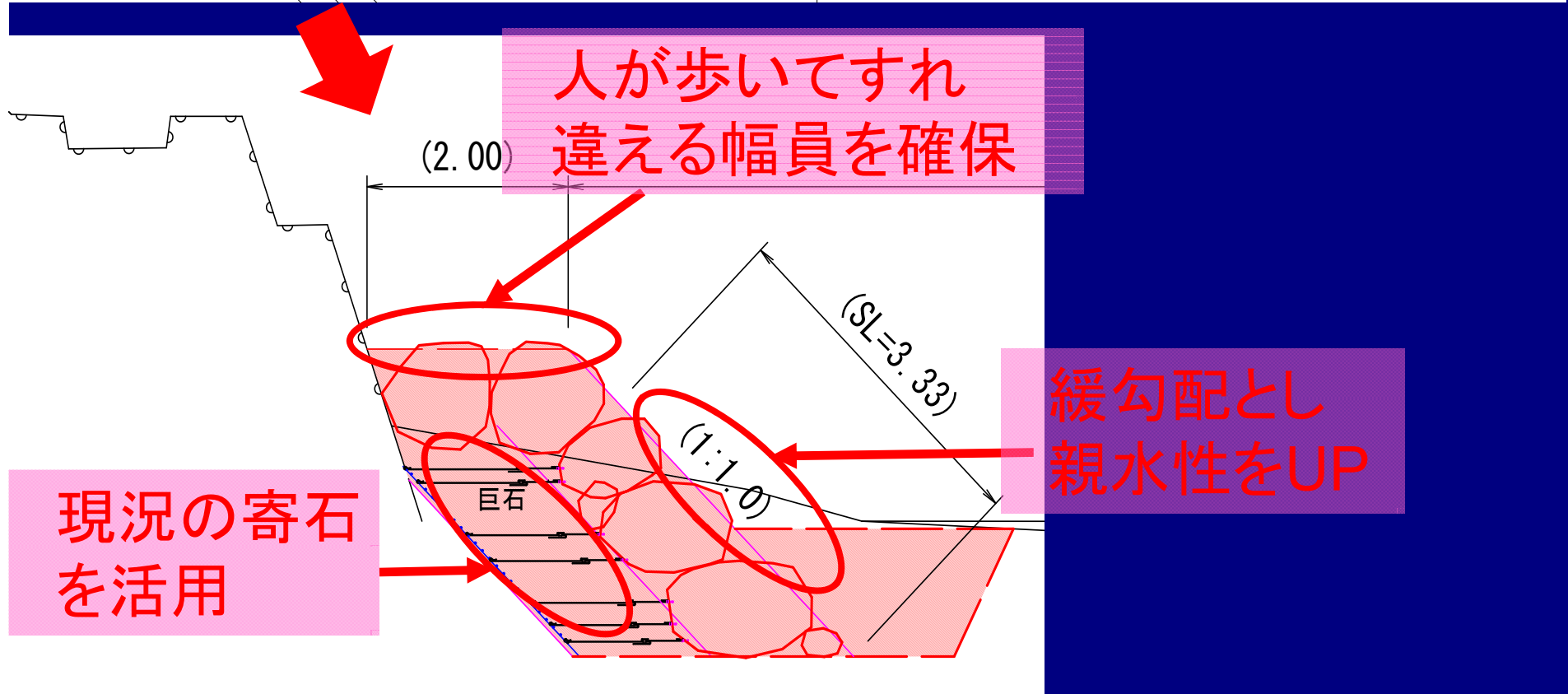


昔の河床高さ

人が歩いてすれ  
違える幅員を確保

緩勾配とし  
親水性をUP

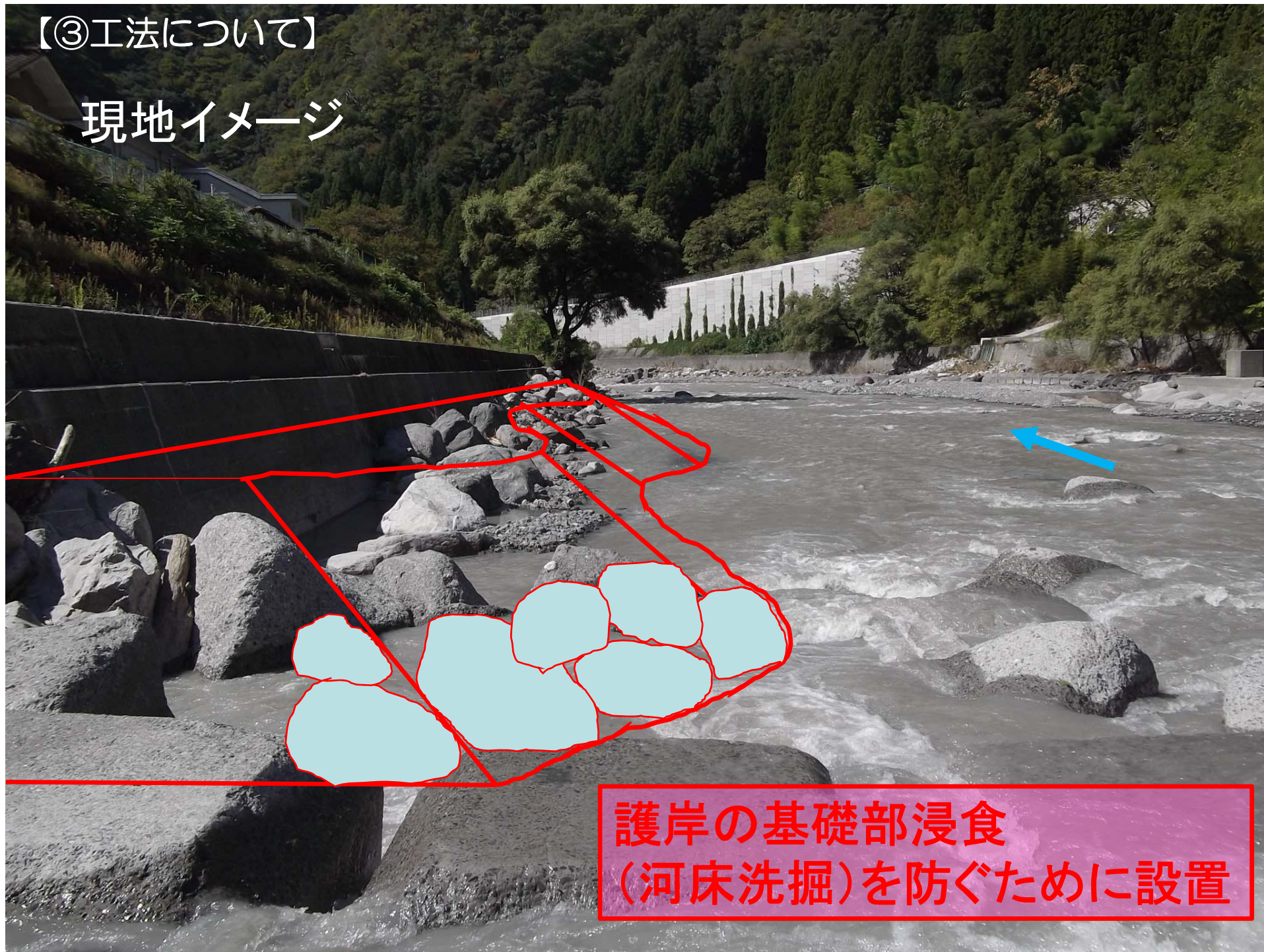
現況の寄石  
を活用





【③工法について】

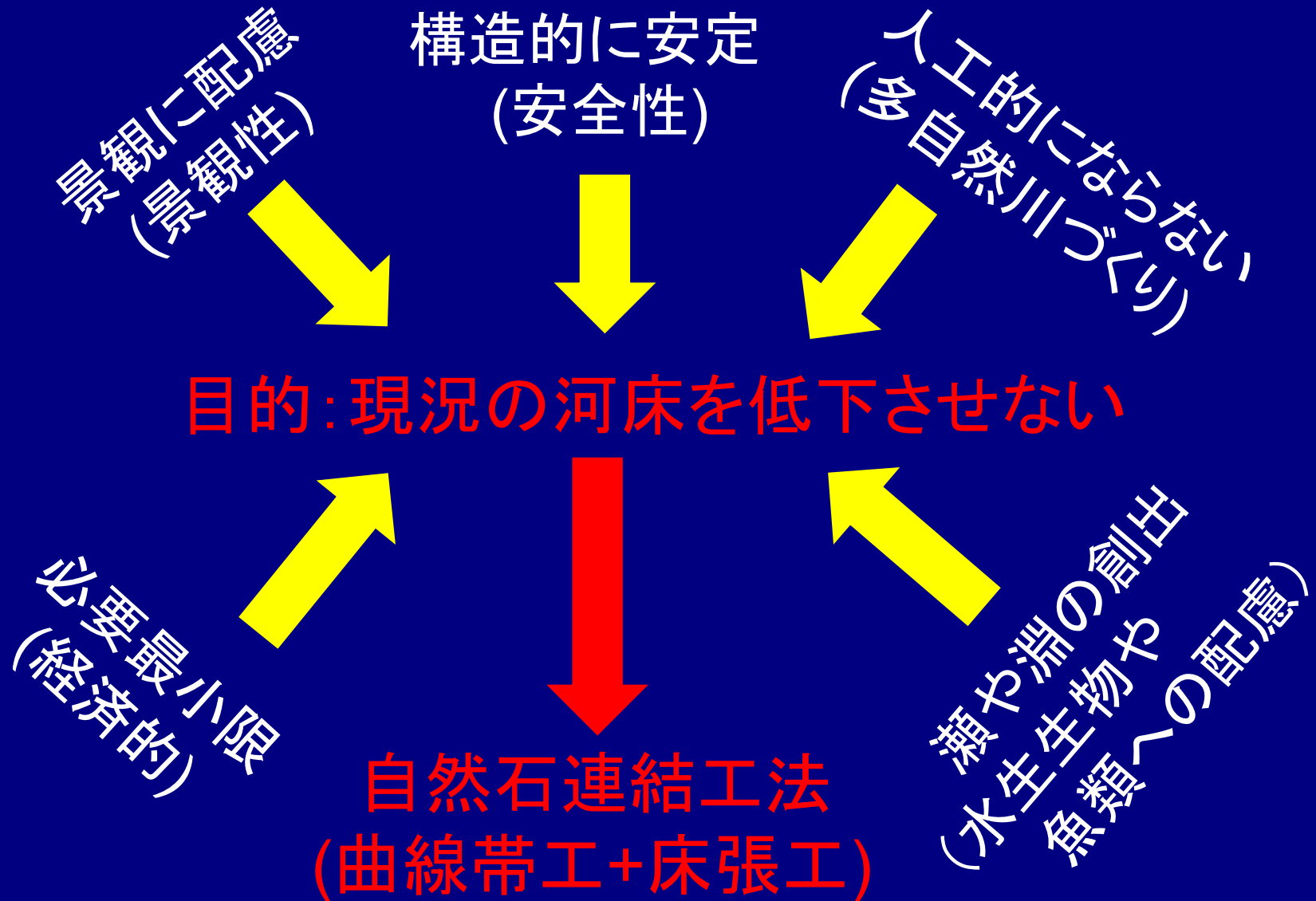
現地イメージ



護岸の基礎部浸食  
(河床洗掘)を防ぐために設置

【③工法について】

## ③工法について(巨石帯工)



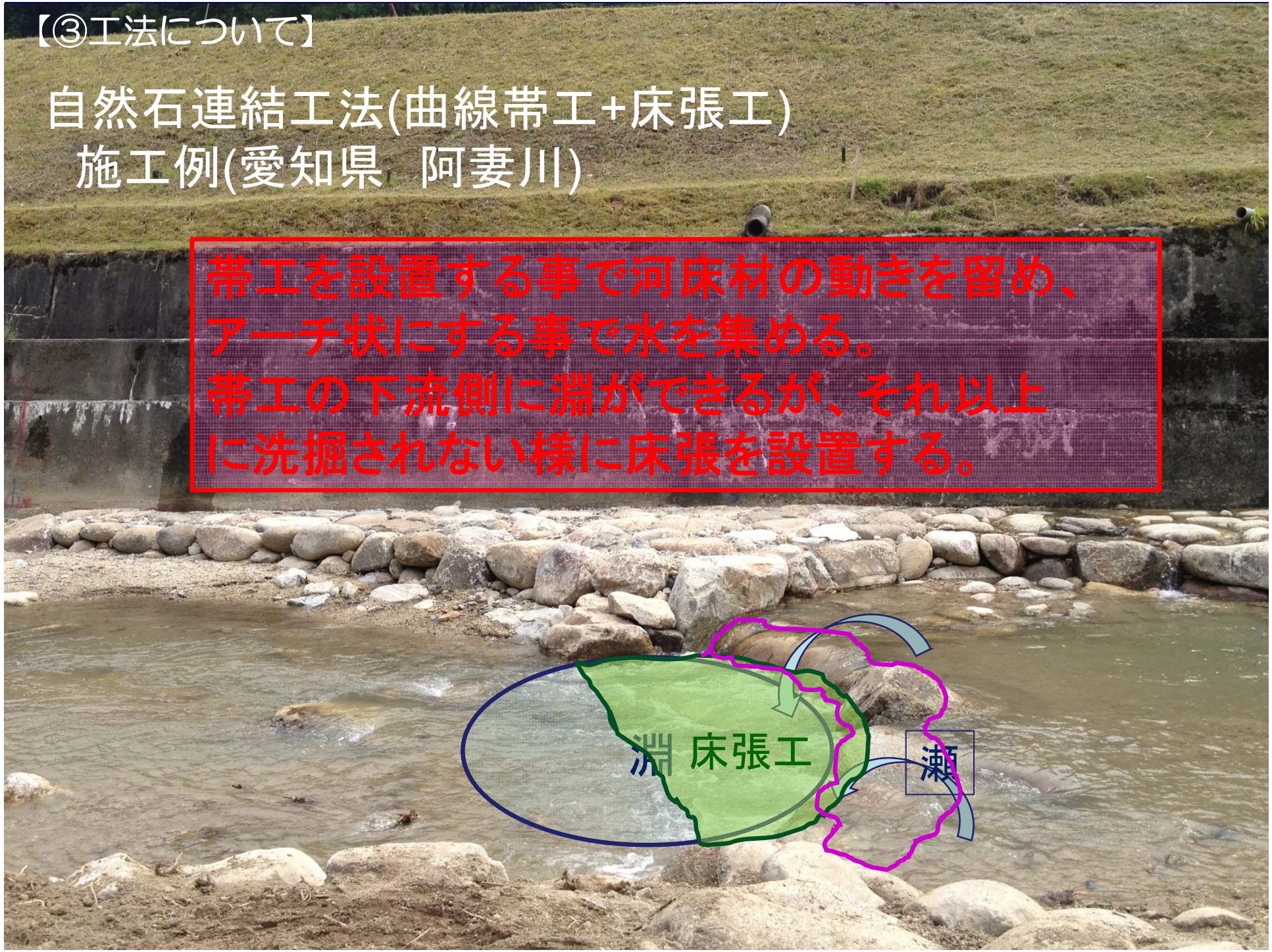
【③工法について】

自然石連結工法(曲線帯工+床張工)  
施工例(愛知県 阿妻川)

帯工を設置する事で河床材の動きを留め、  
アーチ状にする事で水を集める。  
帯工の下流側に淵ができるが、それ以上  
に洗掘されない様に床張を設置する。

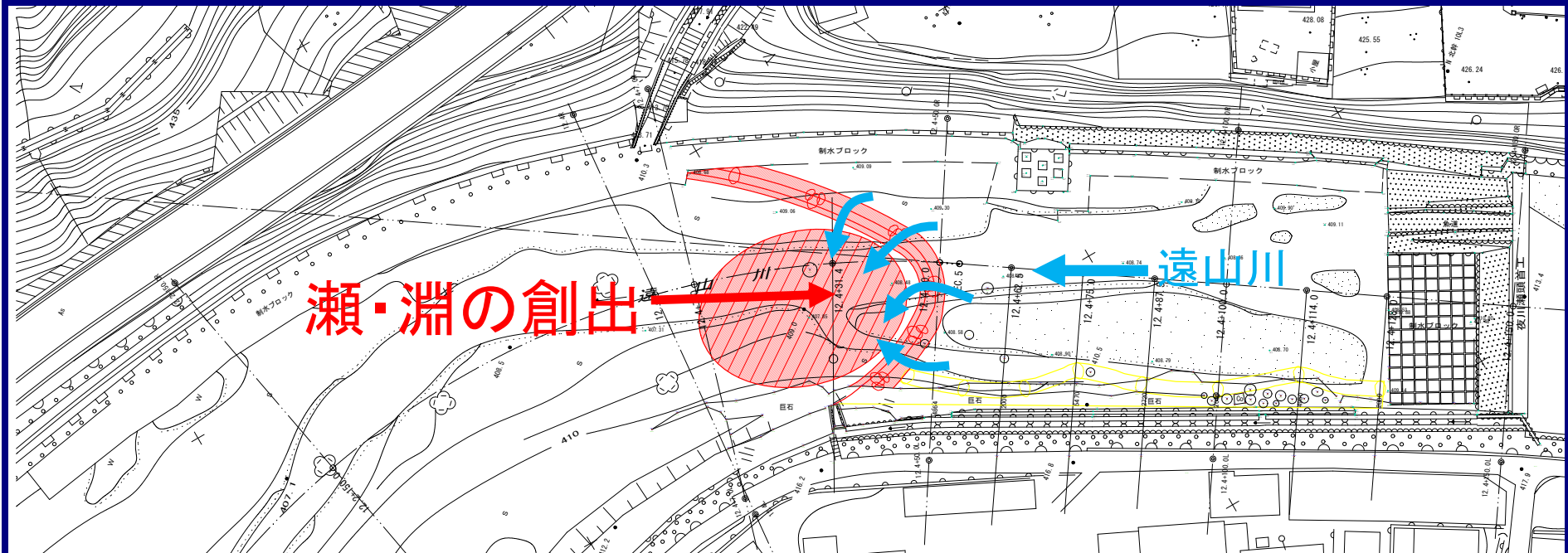
淵 床張工

瀬



# 【③工法について】

## 平面図



【③工法について】

なぜ曲線(アーチ状)か？

○天然河床に点在する石



自然の石の安定状態を手本とする

【③工法について】

なぜ曲線(アーチ状)か？

○出水時の水の流れイメージ

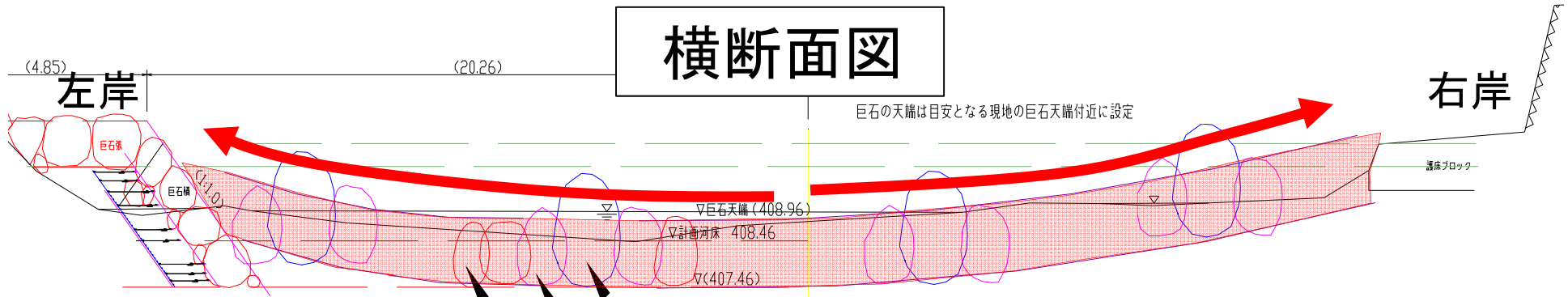
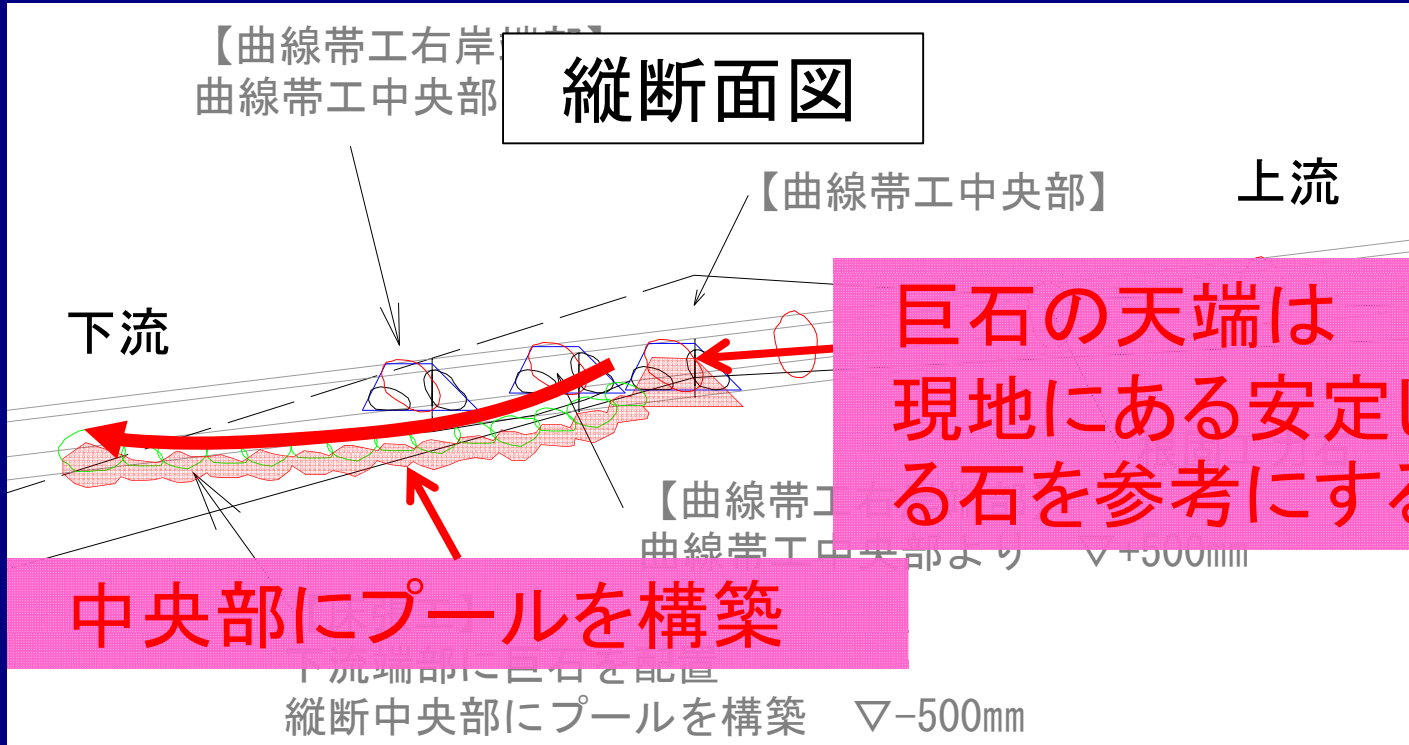


【③工法について】

設置位置は？



### 【③工法について】



中心を低く、両側を高く  
→水を中心へ集め両岸を守る



【③工法について】

# 中学校横完成イメージ図

